

せいけん
詩集
第一篇

作：近藤せいけん

ちち やま おおやま
父なる山 大山
はは かわ さがみがわ
母なる川 相模川

ゆづりう そび た
悠々と聳え立つ

ゆづりう とき こ
悠久の時を超え

すがた こうじやう
その姿 神々しく

さがみ くに しほしん
相模の国の守護神

ちち やま おおやま
父なる山 大山

いくた かわ あら
幾多の川を集め

かわ なが きよ
川の流れ 清らかに

ひよへ たいち
肥沃な大地をつくり

ひとびと へ
人々の暮らしを守る

なが
その流れ 大河なり

はは かわ さがみがわ
母なる川 相模川



「七月の田んぼ」

七月の田んぼ 一面のグリーンベルト
優しい風が 田んぼの上を渡ってゆく

さわあ さわあと 風とともに歌っている

今年の梅雨は なかなか明けない

曇り 雨 曇り 雨

晴れの目が 少ない

それでも 田んぼの稲は

すく すくと育ってゆく

もうすぐ 八月

入道雲のわく 暑い夏が

待ちどおしい

七月の田んぼ 一面のグリーンベルト

優しい風が 田んぼの上を渡ってゆく

すい すいと つばめが田の上を飛ぶ

梅雨空の中 とても軽快に飛びまわる

曇り 雨 曇り 雨

晴れの目が 少ない

それでも つばめは

元気 元気

もうすぐ 八月

入道雲のわく 暑い夏が

待ちどおしい



「あつめぎの町」

青春の時は熱く過ぎ

落ち着いて もの見える頃

世の流れ 移りゆき

変わらないものに心 よせる

ふるさとの山 西に聳え

ふるさとの川 東に流る

清らかな流れ 変わらず

ありがたき

心やさしき 水の都

あつめぎの町

永い旅に出て

ふるさどを思う時

浮かぶ家人の顔 友の声

変わらないものに心 よせる

ふるさとの山 西に聳え

ふるさとの川 東に流る

清らかな流れ 変わらず

ありがたき

心やさしき 水の都

あつめぎの町



青りんご

青りんご 青りんご

どん どん 大きくなあれ

幼子が見あげ 口ずさむ

夏の朝

青りんご 青りんご

どん どん 甘くなあれ

幼子の手ひらをこえた

秋の朝

